*from:*

**シャチクリ・メルシャト**
（大学院生）

海外の保育
2017
日本の保育

# 日本の保育からふるさとの保育・子育てを想う

日本に来る前に、日本の保育や教育については何度か聞いたことがあったが、実際に経験したことはなかった。私が初めて日本の保育を知るのは、二〇一六年のことである。私は日本で子どもを生み、一番大変だった時期と言えば、やはり最初の一年だったと思う。両親もいない異国で研究しながら育児をする生活は、思ったよりも大変だった。

外国人の私が、日本の保育について一番驚いたことは、赤ちゃんを生後わずか数週間で保育園に預けることができるということである。このことを聞いて、郷里の両親も驚いた。後述するが、私の郷里では、三歳になって初めて幼児園に預けるのが一般的である。

息子が生後七か月のときに、お茶の水女子大学附属いずみナーサリー（以下ナーサリー）の存在を知り、すぐに入園することができた。異国で子育てをする留学生である私にとって、これ以上に助けになることはないと思うくら

シャチクリ・メルシャト（Xatgul　Mirxat）
お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科ジェンダー学際研究専攻博士後期課程２年。 日本で子育てをしながら研究しています。夫と息子と私の３人家族で日本に在住しています。

い感動した。

ナーサリーに子どもを預けて研究をするこの一年の間に、日本の保育と郷里の保育の、文化的なさまざまな違い、そして共通点が見えてきた。

私の出身地は中国・新疆（しんきょう）ウイグル自治区であり、さまざまな文化が混ざっている地域である。日本の保育と出身地の保育を比較すれば、日本では三歳以下の子どもでも保育園に預けられているが、郷里では、三歳以上の子どもの通う「幼児園」という場所が、日本の保育園と幼稚園が一体になったものと言えるのではないかと思う。私の出身地、新疆ウイグル自治区では、三歳以上の子どもが幼児園に行けるということである。中国の他の地域の保育環境も、多少の違いはあるかもしれないが、ほぼ同様ではないかと思う。

保育の必要性の側面から見てみれば、経済的な理由で共働き家庭が増えているし、女性（母親）が男性と同じように社会で働いているため、朝から夕方まで子どもをそのような場所に預けることは一般的であると言える。

また、三歳以下の子どもについて郷里で現在でも一般的なことは、おじいさんとおばあさんが子どもの面倒を見る、ということである。平日であれば、子どもはたいていおじいさんとおばあさんの所に居るし、いろんな親戚とよく会えるし、一人の子の周りを「たくさんの愛」が取り巻いているということだ。週末に両親が迎えに来て、週末の時間は両親と過ごすということが多い。異国で母親になった現在の私がいつも考えるのは、私ももし郷里で暮らしていたら、他の子育て中の母親と同じように、祖父母や親戚のたくさんの愛に包まれながら子育てをしているだろう、ということである。

郷里の幼児園に子どもを預けている友人と話ができる機会があり、その時に聞いた幼児園での一日の保育の流れを簡単にまとめてみると、右の表のようになる。

日本の幼稚園よりも、始まる時間、終わる時間がだいぶ遅いと思われるかもしれない。新疆ウイグル自治区と日本との時差は、北京と日本の間と同様に一時間であるが、新疆ウイグル自治区と北京とは距離にして三千キロ以上離れていて、経度もかなり違っている。本来なら三〜四時間程度の時差があってもおかしくないほどの隔たりがあるが、時計時間として北京時間を使用しているため、生活時間の感覚が、日本や北京の時計時間とはだいぶ異なっているのだと思う。

| | |
|---|---|
| 10:30 | 登園 |
| 11:30 〜 | 勉強、遊び |
| 13:00 〜 | 昼食 |
| 14:30 〜 | 昼寝 |
| 17:00 〜 | おやつ、遊び |
| 18:30 | 降園 |

▲新疆ウイグル自治区のある幼児園の一日（北京時間による）

友人の話によると、保護者はほぼ皆、仕事に行く直前に幼児園に子どもたちを預けに行き、一日の仕事が終わったら迎えに行っているということである。幼児園の送迎時間は、公共的な仕事が始まる時間と終わる時間によって決められているようだ。しかし先にも述べたように、一般的に平日は、おじいさん、おばあさんと過ごす場合が多いため、幼児園にもおじいさんとおばあさんが迎えに行くことが多いと考えられる。なお、幼児園の昼食についても話が出て、子どもたちは皆、幼児園で作られた料理を食べるのが一般的であり、両親が弁当を作るということはほとんどないそうだ。

現在異国で子育てをする私にとって、一番困っていることは何かと聞かれたら、それはやはり、環境の違いがもたらす言語獲得の差、ということだと思う。

郷里の幼児園では、日本と同じように単一の言語を使っている場合が多い。だから、子どもたちは一つの言語で「話す・遊ぶ」ということである。それに対して、日本で生まれた私の息子は、毎日いくつもの言語を聞いているし、それにより、「話す・遊ぶ」生活の中でもそれらの言語すべてがミックスしている。それを考えると、いくつもの文化背景を持っている子は、言葉を獲得する人生最初の時期から、「モノ」を考える思考の過程や方法が複雑であると思う。

現在、私も複数言語環境で子育てをしているが、モノリンガル環境より言語習得に遅れが出ると聞いたことがある。それを考えながら、現在は、日本の保育園で完全な日本語話者の中で過ごし、同時に家庭では、息子が将来モノリンガルな人間として生きるために、完全なウイグル語環境で生活をしている。その上に、必要である中国語と英語も頭の中に毎日入っているという状態で過ごしている現実がある。

そういった現実は踏まえつつ、息子に限らず日本で生まれた外国人の子どもたちが、日本の素晴らしい保育環境の中で、正しい日本語も習得し、かつ、母語によってしっかりと自己表現できるように育ってくれたらとても素晴らしいと思う。違う文化・違う国からもたらされる力を、異文化での保育環境においても、「自分」の確立と「相手」への相互理解のために発揮することが可能であると信じたい。